

市内名所旧跡を生け花で飾る

歴史ロマン・花めぐり

12日の能舞台開催前に

福山駅にひと足早くお目見え

福山市鞆町を中心に市内全域の史跡や文化施設などに生け花を飾る「福山歴史ロマン・花めぐり」の試みが十日から十二日の三日間、各地で行われるが、それに先立つ七日、JR福山駅コンコ

ースにひと足早く生け花作品がお目見えした。いけばな「閑淵流」の小川閑淵家元作の生け花で題名「鞆の津 晩秋」。高き三・五層、横二層の作品は銀色を施したツバキの木に漁網や海に見立

てたブイをアレンジ。ブイにはユリの花を生けている。鞆の漁港の晩秋の様子をイメージしている。

小川家元は「駅を歩く時、ここで秋や旅情を感じてもらえれば」と話していた。

「福山歴史ロマン・花めぐり」は市民や市内小中学校らで組織する「花・歴史ロマンチーム」（大島泰子代表）の主催。今月十二日に鞆町・沼名前神社の能舞台で行われる能の公演の盛り上げを図るとともに、福山を訪れる観光客への歓迎の意を表わす。

昨年は鞆町内のみならず、三ヶ所でも実施したが、今年には市内全域計二十三ヶ所に拡大した。鞆町内では沼名前神社や対潮楼、太田家住宅など十ヶ所、市内では明王院（草戸



福山駅コンコースに設置した生け花

町、康塾（神辺町）、吉備津神社（新市町）、阿伏鬼観音（沼隈町）など十三ヶ所に生け花を設置する。他の場所には九日中に生ける予定。大島代表は「これを機会に一ヶ所でも二ヶ所でも郷土の史跡を訪れてほしい。市外から来た人には福山を知ってほしい」と話している。

06/11/08 大陽新聞

back